吉祥村の日々（1992）

雑嘴子
AN INNOCENT BABBLER

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 中国
色彩 Color
時間 95分
初公開日 1994/12/03
公開情報 ＴＪＣ東光徳間

【解説】
’８５年に中国最年少の２５歳で監督デビューを果した俊英・劉苗苗、３０歳の４作目。ロッセリーニを愛するという彼女の、’９３年ベネチアで国会議長賞を獲得した、自伝的要素の強い小品だ。舞台となる寧夏自治区はユネスコが世界１０大最貧困地帯の一つと認定している寒村。原題の“おしゃべりっ子”とあだ名される主人公、民生は両親と兄・群生との４人暮らし。頭の回転の早い、利発で元気な少年だ。村で唯一の小学校に通い、皆と同じに神秘の山・青竜山への砂金探しを夢みる。ある日、村の会計役の父が汚職の疑いで逮捕され、村人たちの一家に対する態度が一変する中、学校の王先生だけは同情的で、群生の結婚も無事とりまとめる。また、村長の孫で父親のない典々も民生と親しく接し、実は王先生は自分の父親だと告白するが……。民生のお喋りが借金返済のための兄のトラクター売却話をご破算にし、怒った兄が新車同様のそれをぶち壊す場面、やはり、民生の口ぐるまで雪の中、子供たちが砂金探しに出かける場面が後半のクライマックス。出稼ぎ後、爆竹づくりに転職した兄の作業とカットバックで描かれる、探検のシーンはスリルいっぱいだ。王先生による訓話も一くさりあり、児童映画の体裁も保ってはいるが、純真であるがゆえに罪作りな民生の“汚れなき悪戯”を描いて、鋭い人間洞察の行き渡った優れた作品である。

【クレジット】
監督 リュー・ミャオミャオ
脚本 ヤン・チョンクワン　Yang Zheng-Guang
リュー・ミャオミャオ
撮影 王久文
音楽 温中甲
出演 リー・レイ
ユアン・チン
ルー・シャオアン

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.